



第 684 回 日本小児科学会東京都地方会講話会 プログラム

日 時： 2022 年 9 月 10 日 (土) 午後 2 時 00 分

来場開催会場： アットビジネスセンター八重洲 501 号室

ライブ配信 URL：

<https://nihon-u-ac-jp.zoom.us/j/82752387980?pwd=YUFRVnRMU0JTZllmczBUd2F5KzZmQT09>



ミーティング ID：827 5238 7980 パスコード：060734

参加方法	参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備 考
来場参加	500 円	小児科領域講習 1 単位 (iii 貼付用) 学術集会参加単位 (iv -B 貼付用)	* 単位を取得するためには教育講演全ての聴講が必要 (60 分)
WEB 参加	無 料	単位配布のご用意はございません。	

【お知らせ】

第 680 回講話会教育講演のオンデマンド配信と聴講単位の付与のご案内は別紙よりご確認ください。
なお、東京都地方会講話会教育講演のオンデマンド配信は今回を以って終了させていただきます。



【会場アクセス】

■ JR 東京駅 (八重洲口) より徒歩約 10 分

■ 日比谷線 八丁堀駅より徒歩 2 分

※ 日比谷線八丁堀駅 (A5 出口)

アットビジネスセンター八重洲 501 号室

東京都中央区八丁堀 1-9-8 八重洲通ハタビル 5・6 階

※ 建物の外観：ガラスカーテンウォール

※ 看板表記：ABC conference room

【東京都地方会】

会 長：森岡一朗 (日本大学医学部小児科主任教授)

主幹校：日本大学医学部小児科 担当：岡橋 彩

事務局：佐藤企画 佐藤貴志

当日緊急連絡先：佐藤企画 (TEL048-706-7196)

東京都地方会 HP：<https://plaza.umin.ac.jp/jpstokyo/>



第 684 回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内厳守のこと)

《プログラム係 帝京大学小児科 伊藤 直樹》

開会あいさつ 14:00 – 14:05 森岡 一郎 (日本大学医学部小児科学系小児科学分野)

第 1 グループ 14:05 – 14:30 座長：西野 智彦 (帝京大学小児科)

1) SARS-CoV-2 ワクチン接種後に発症した間質性腎炎の 14 歳男子

○武政 洋一¹⁾、加藤 南¹⁾、長谷川 愛莉¹⁾、福澤 志保¹⁾、鈴木 令奈¹⁾、岡部 史郎¹⁾、久保田 淳¹⁾、木下 美沙子¹⁾、斎藤 亮太¹⁾、堀向 健太¹⁾、平野 大志²⁾、高畠 典子¹⁾、大石 公彦²⁾

(東京慈恵会医科大学葛飾医療センター小児科¹⁾、東京慈恵会医科大学病院小児科学講座²⁾)

14 歳男子。SARS-CoV-2 ワクチン 3 回目を接種後に発熱、咳嗽および全身倦怠感が出現し、腎機能障害を認めたため当院紹介となった。尿中 $\beta 2$ MG 上昇、腎生検より薬剤性間質性腎炎と診断した。DLST では SARS-CoV-2 ワクチン他 1 剤が陽性であり、発症にその関与が疑われた。ステロイドにより腎機能障害は改善傾向である。

2) *Actinotignum shaalii* による尿路感染症の 1 例

○加嶋 菜々子¹⁾、橋本 大¹⁾、中川 愛¹⁾、鈴木 貴大¹⁾、皆川 優納¹⁾、佐藤 祐子¹⁾、山口 克彦¹⁾、藤原 優子¹⁾、大石 公彦²⁾

(町田市民病院小児科¹⁾、東京慈恵会医科大学小児科²⁾)

1 歳 9 か月女児。発熱を主訴に受診し、尿から *Actinotignum shaalii* が 10^5 以上検出され、尿路感染症と診断した。同菌は、コリネフォームを呈する通性嫌気性グラム陽性桿菌である。通常的好気培養では検出が極めて困難で、嫌気培養や 5% 炭酸ガス培養を要する。しかし近年、質量分析を用いた菌種同定の普及により検出例が散見されており、文献的考察を加えて報告する。

○指定発言：平野 大志 (東京慈恵会医科大学小児科)

第 2 グループ 14:35 – 14:55 座長：関口 昌央 (東京大学小児科)

3) 伝染性単核球症に続発した冷式自己免疫性溶血性貧血に脾梗塞を合併した 1 例

○林田 真吾、下澤 克宜、植野 優、金澤 剛二、谷ヶ崎 博、森岡 一郎

(日本大学小児科)

15 歳女子。遷延性発熱で受診した EB ウイルスによる伝染性単核球症。加温で改善する著明な赤血球凝集像を認め、直接 Coombs 試験陽性 (IgG・C3d) および寒冷凝集素の上昇から冷式自己免疫性溶血性貧血と診断した。左側腹部痛を認め、脾梗塞を合併していた。本症の脾梗塞合併例の報告はなく文献的考察を踏まえて報告する。

4) 当院で COVID-19 に罹患した小児がん患者における治療への影響

○町元 菜紗、石橋 武士、藤原 恵、谷口 明德、富田 理、栗本 朋子、寺尾 梨江子、高田 オト、藤村 純也、清水 俊明

(順天堂大学小児科)

小児がん患者は潜在的に COVID-19 の重症化リスクを有すると考えられるが、原疾患や治療段階によりその程度は異なる。我々は化学療法中に COVID-19 に罹患した症例を 5 症例経験した。重症例はなかったが、全例で治療スケジュールの変更を要した。COVID-19 の小児がん治療への影響について文献的考察を交えて報告する。

感染症だより 15:00 – 15:20 (講演: 15 分 + 質疑応答: 5 分)

座長: 齋藤 義弘 (医療法人社団めぐみ会自由が丘メデイカルプラザ 小児科)

講師: 砂川 富正 (国立感染症研究所感染症疫学センター)

教育講演 15:25 – 16:35 (講演: 60 分 + 質疑応答: 10 分)

「先天性サイトメガロウイルス感染診療の実際」 小児科領域講習 1 単位

座長: 森岡 一朗 (日本大学医学部小児科学系小児科学分野)

講師: 伊藤 嘉規 (日本大学医学部小児科学系小児科学分野)

先天性サイトメガロウイルス感染 (CCMV) は、日本では 0.31% (23.9% が症候性) と報告され、いわゆる TORCH 症候群の中で最も頻度が高い。約 10% の患者は出生後早期に症候性感染と診断され、その多くは難聴、てんかん、発達障害等の中枢神経障害を呈する。CCMV は、ウイルス学な核酸診断法が 2018 年に保険収載されたことから、診断児が増加している。CCMV の診断・治療・フォローアップについての概要、自験例を紹介する。

* * 休 憩 16:35 – 16:45 * *

第 3 グループ 16:45 – 17:10 座長: 治山 芽生 (埼玉県立小児医療センター 消化器・肝臓科)

5) 腸回転異常症術後に蛋白漏出性胃腸症を来した男児例

○亀井 優、高橋 英城、中坪 亜里沙、鈴木 崇、長谷川 里奈、松本 和華子、大野 幸子、
長尾 竜兵、山崎 崇志、山中 岳

(東京医科大学小児科)

2歳4か月男児。6か月時に腸回転異常症認め整復術施行した。1歳11か月時腸重積を契機に全身の浮腫出現、蛋白漏出性胃腸症と診断された。腹部造影 CT では腸回転異常症増悪、上腸間膜動脈狭窄、上腸間膜静脈怒張があり再度手術とした。腸回転異常症は時に再発し、蛋白漏出を合併することがある。文献的考察を含め報告する。

6) 初診時の小球性貧血所見が重要であった Crohn 病症例

○金 喜栄¹⁾、堀川 美和子¹⁾、島袋 林秀¹⁾、窪田 満¹⁾、新井 勝大²⁾、石黒 精³⁾

(国立成育医療研究センター 総合診療部¹⁾、同 消化器科²⁾、同 教育研修センター³⁾)

11歳男児。急性発症の腹痛、嘔吐、血性下痢で救急外来を受診した。病歴聴 取上は血便の既往はなかったが、Hb7 g/dl の小球性貧血と数ヶ月で5kg程度の体重減少から炎症性腸疾患 (IBD) を疑い、全消化管の内視鏡評価にて小腸大腸 Crohn 病の診断に至った。受診後早期に IBD を疑うことは重要であり、Crohn 病の初期症状について自験例を含めて考察する。

○指定発言 竹内 一朗 (国立成育医療研究センター 消化器科 小児炎症性腸疾患センター)

第 4 グループ 17:15 – 17:45 座長: 高宮 聖実 (帝京大学小児科)

7) 母体の高マグネシウム (Mg) 血症による一過性低カルシウム (Ca) 血症を呈した新生児例

○山田 拓人¹⁾、吉野 明日香¹⁾、山野 春樹¹⁾、家村 綾正¹⁾、伊藤 一之¹⁾、大槻 彩子²⁾、
高澤 啓¹⁾、菊池 絵梨子²⁾、鹿島田 健一¹⁾、森尾 友宏¹⁾

(東京医科歯科大学小児科¹⁾、練馬光が丘病院小児科²⁾)

日齢7男児。日齢4に上下肢の不随意運動で発症、Ca 7.7 mg/dL と低値だった。母体は切迫早産で23日間のMg製剤投与歴があり血中Mg濃度は正常2倍程度で推移した。低Ca血症は無治療で軽快したため、原因は母体のMgが経胎盤的に移行し、母体・児のPTH分泌抑制によると考えた。Mg製剤の長期投与は児の低Caのリスクとなる。

8) 無熱性けいれんを契機に診断された好酸球性腸炎の1例

○杉本 龍之介、磯部 あいこ、井口 智洋、冠城 祥子、明石 真幸、高橋 孝雄

(慶應義塾大学小児科)

6か月女児。無熱性けいれんで救急搬送された。血清総蛋白 2.7g/dL、イオン化 Ca0.8mmol/L であり、消化管内視鏡検査により好酸球性胃腸炎による蛋白漏出性胃腸症と診断した。母乳をアミノ酸乳に変更したところ良好な経過を辿った。好酸球性胃腸炎は低 Ca 血症によるけいれんを契機に発見され得る。

9) 骨形成不全症と先天性心疾患を合併した1例

○吉田 賢司、長谷部 衣紅、松本 怜、権守 延寿、馬場 俊輔、伊藤 怜司、安藤 達也、
大石 公彦

(東京慈恵会医科大学小児科)

3か月の乳児。胎児期に大動脈縮窄複合、口唇口蓋裂および大腿骨弯曲と診断した。経過中に頻脈を伴う不機嫌を認め、X線写真で両側大腿骨・右上腕骨の骨幹部骨折を認めた。青色強膜も認め骨形成不全症の遺伝子検査を提出した。パミドロン酸投与を開始し新規骨折なく経過している。骨系統疾患に先天性心疾患を合併することは稀であり報告する。

会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ

【年会費納入について】

先日、会員の皆様に新会員システム【学会バンク】利用開始のお知らせを郵送致しました。新システムに移行したため、オンライン上で会員情報をご登録頂き、年会費の納入をお願いします。

2022年度のお支払いは2022年12月末日までにお手続きお願いいたします。

- * ホームページから会員ログインして頂きますと、【学会バンク】ページに自動に切り替わり、会費納入状況が確認できます。ご自身で確認頂き、未納分のお支払いをお願いいたします。
- * 3年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。
- * 今後の会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きお願いいたします。

【講話会プログラムのペーパーレス化について（講話会プログラム郵送の中止）】

ホームページリニューアルに伴い687回（2023年1月）講話会よりプログラムはホームページから各自ダウンロードして頂きますようお願い致します。引き続き郵送をご希望の場合は、事務局までご連絡をお願いいたします。

そのほか、ご不明な点がございましたら事務局までご連絡をお願いいたします。

【次回以降開催予定】 2022年10月8日（土） 来場（アットビジネスセンター八重洲）＋ライブ配信
2022年12月10日（土） 来場（アットビジネスセンター八重洲）＋ライブ配信
2023年1月14日（土） 来場（アットビジネスセンター八重洲）＋ライブ配信

【事務局】 佐藤企画 佐藤貴志（TEL：048-706-7196）

jpstokyo-office@ab.auone-net.jp

東京都地方会 HP：https://plaza.umin.ac.jp/jpstokyo/



演題募集中！

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。